

<概要版>

社会技術研究開発の今後の推進に関する方針 ～社会との協働が生む、社会のための知の実践～

(1) 業務運営の基本理念（どのような基本的視点を持つか）

社会における具体的問題の解決を通じて社会の安寧に資するとの事業目的の下に、以下の理念をもって運営。

- 社会の具体的な問題が現出するコミュニティや現場における経験的かつ実践的な知見を重視
- 自然科学と人文・社会科学の複数領域の知見の統合。問題の関与者やユーザーとの協働
- 個別プロジェクトを俯瞰し統合、普遍化し、政策・制度や新たな仕組みづくりに貢献

(2) 研究開発等の方向性（どのような研究開発等を対象とするか）

- センターでしかできないこと、センターがすべきこと（多分野の知識の連携を要する社会の重要な問題であるが、研究開発対象として取り上げられていないこと）
- JSTの他事業との連携を強化。「自然科学系の技術の社会化」の観点から研究開発等を推進
- 研究開発の実施段階から成果の「社会実装」を十分に意識。多様な実装活動とその実施者を支援

(3) 社会技術に関わる基盤構築への貢献

- 「社会の問題の解決をめざす研究開発の方法論、評価手法」などの社会技術としての「知」を実践に基づいて体系的に蓄積し、RISTEXモデルとして発信
- 研究開発等の支援やマネジメント活動を通して、問題解決を志向する人材の育成に貢献

(4) 国際的視点の強化

- 研究開発等の国際化の強化と国際的枠組みへの参画
 - － 国外の知見や水準との照合等により効果的な研究開発を推進
 - － 国内外で共有しうる課題や方法論を積極的に発信し、関与者と連携。大きな問題の解決へ。

◆上記の方向性の具体化に向けて、

(5) 事業目的の具体化・構造化と社会の問題抽出プロセスの強化

- JST他事業や関連機関との連携・国際的視点の追加し、領域設定の議論をより多角的に
- 「領域」を問題解決の姿に向けて段階的でストーリー性のある形で設定（長い期間、広い範囲）
- 領域に係るストーリーに基づいて具体的な課題達成を掲げた「プログラム」を設置
- 社会の変化の反映を可能とする運営（ストーリーの再構築、プログラムの改廃など）

(6) 成果の統合、普遍化（取り組みの共有と強化）

- 成果の統合、普遍化に向けた取り組みをより具体的かつ総合的に提示
- 領域間の情報共有や議論を促進し、方向性や役割を関係者で共有
- 推進の方法論について、ファンディングの態様や推進体制とあわせて検討・具体化

◆上記の方向性の実現に向けて、

(7) アクションプラン概要

センターのシンクタンク機能を強化して、当該機能とファンディング機能を一体的かつ機動的に運用し、社会技術研究開発を効果的に推進。このため組織体制を刷新。

以上